

雑居ビル火災の教訓- 西日本防災システム

その火災は、1978年3月10日午前0時過ぎ、新潟県新潟市古町にあった雑居ビル「今町会館ビル」で発生し、11名が死亡したものです。建物は新潟市の繁華街である古町の裏通りの昭和新道にありました。火元は3階建てのビルの2階にあったスナック「エル・アドロ」の出入り口付近でした。出入り付近にはちようどスポットライト用の電源コードがあり、これが天井内で漏電により出火し、天井の合板へと燃え広がったものでした。

当時店内には客20名と従業員の3名が居ました。このうち調理台付近にいた従業員が火災に気づき、1階料理店に消防署への通報を要請しました。従業員からの報告ですぐにスナックの支配人も消火を試みましたが、火の勢いは収まらなかったようです。内装用に使われていた可燃性の壁装を伝い、火は火元となった出入り口付近から店内へ、更に階段を伝って3階へ広がっていきました。これと同時に有毒ガスが店内に充満し始めたことも避難をより困難にさせた要因のようです。

唯一の避難口であった出入り口付近から出火した為に、早いうちに火災に気づいた客や従業員は難を逃れましたが、気づくのが遅かった客は行き場を失いました。飲酒状態にあった客も多く、避難行動が難しかったようです。消防が到着した時にはまだ中に逃げ遅れた人がいるという状況で、結果的にこの時点で取り残されていた11名が死亡し、2名が負傷しました。トイレに逃げ込んだ客も先に飛び降りた3人は助かり、飛び降り損ねた4人は命を落とし、ほんのわずかな時間差が生死の明暗を分けることになってしまったようです。昭和新道は道幅が狭く、古町とを結ぶ通りは更に細い道でした。これもまた消防車による消火を困難にさせることになりました。それでも類焼はなく、午前1時前には鎮火しました。ビル自体も1階は影響を受けず、火災による被害も2階の3分の2と3階のごく一部にとどまったことから、半焼扱いとされました。火災によって発生した有毒ガス、そして出火場所が唯一の避難口のそばだったこと、さらに初期消火の僅かな遅れが11名の死者を出す惨事につながってしまった原因ですね。

小さな雑居ビルでの火災の問題点が露呈した事件だったようです。30年あまりが過ぎた今日、私たちは、何を学んできたのでしょうか。謙虚に振り返る余裕が必要かもわかりませんね！

内装制限や二方向避難、堅穴区画の確立、避難器具基準強化、自動火災報知設備の充実、訓練の実施等、随分進められていますよね！ もっと頑張りましょう！！



西日本防災システム

NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ

